千葉市立郷土博物館主催

「政令市移行 30 周年記念、令和 4 年度特別展

我、関東の将軍にならん

—小弓公方足利義明と戦国期の千葉氏—」見学メモ

2023.2.2　　森　雅城

昨年、令和 4 年 10 月 18 日～12 月 11 日に開催された標記展覧会に行って来ましたので、概要を下記の通りご報告いたします。

(はじめに)

1. 新聞報道（2022 年 10 月 22 日付、朝日新聞）によれば、「本展覧会を企画したのは、同博物館主査の錦織和彦さん（47)。戦国期に小弓（現在の中央区生実町）を拠点に南関東を制圧し、『関東の風雲児』と言われた『将軍』足利義明だが、これまで史料の少なさから、その実態は明らかになっていなかった。

　展示では、わずか 20 年で北条氏に敗れ去った義明と義明から小弓を奪還した千葉氏が北条氏に従属していく過程など、知られざる戦国時代の千葉市域の歴史を掘り起こす。指定文化財となる書状など貴重な歴史資料やパネル全 125 点を展示している。(以下、略)」

　以上、「足利義明の足跡たどる。政令指定市移行 30 周年、千葉市立郷土博物館で特別展」と題する下記記事より抜粋しました。

2022.10.22.

足利義明の足跡たどる

千葉氏中興の祖、千葉常胤の像＝千葉市立郷土博物館、田口義武撮影

政令指定市移行30周年 千葉市立郷土博物館で特別展

千葉市の政令指定市移行30周年を記念した特別展「我、関東の将軍にならん—小弓公方足利義明と戦国期の千葉氏—」が千葉市立郷土博物館で開かれている。入場無料で12月11日まで。

企画したのは同博物館主査の錦織和彦さん(47)。戦国期に小弓(現在の中央区生実町)を拠点に南関東を制圧し「関東の風雲児」と言われた「将軍」足利義明だが、これまで史料の少なさからその実像は明らかになっていなかった。

展示では、わずか20年で北条氏に敗れ去った義明と、義明から小弓を奪還した千葉氏が北条氏に従属していく過程など、知られざる戦国時代の千葉市域の歴史を掘り起こす。指定文化財となる書状など貴重な歴史的資料やパネル全125点を展示している。

八千代市の林英代さん(66)は義明について知りたいと思い、21日に会場を訪れた。「貴重な機会なので、楽しみにしていた」と話した。（佐藤麻理子）

写真 1.　会場正面の様子

2. また、同博物館のホームページには、本展覧会にかかわる「コラム」で次の通りの記述があります。

「この 18 日、火曜日より、標記特別展が始まりました。これまで足利義明をメインテーマとした展示は皆無であったといってよいでしょう。義明が御所を構えた小弓（中央区生実町）のある千葉市で、本展を開催出来ることは大変喜ばしいことであり、同時に責任をひしひしと感じます。

先学の研究成果に大きく拠りながら、謎の多い義明の実態解明に努めたたつもりですが、いろいろ壁に突き当たりました。（以下、略）」として、主催者の責任の重さと苦労を述べています。

3. さて別の参考資料（書籍）によれば、「16 世紀前半、古河公方足利政氏と嫡子高基（初名、高氏）の政治的対立は、やがて高基と弟、義明の関東足利氏の正嫡争いの抗争へと変移したが、この公方家の内紛は、上杉氏ら関東諸士を巻き込んで展開される。兄高基に対抗した義明は、下総国下河辺庄高柳（埼玉県葛飾栗橋町）から上総国の真里谷武田氏の招請を受けて同国に移り、永正 17 年（1520）6 月頃から、翌 18 年（天文元年/1521）8 月以前に下総国小弓城（生実城/千葉市中央区）に入城し、ここを御所と定めて自立した。以後天文 7 年（1538）10 月の義明の滅亡まで、長きにわたって小弓・古河両軍の間で戦闘が繰り広げられることになったのである。（以下、略。以上千野原靖方著「小弓公方足利義明　関東足利氏の正嫡争いと房総諸士」より）

4. 本企画展は、8 章にわたり、「小弓公方」の紹介からその滅亡に至る過程、また滅亡したとされる子孫が、実は江戸、明治、さらに現代に至るまで、その系統（血脈）が続いていることを紹介している。

しかし、特に、力を入れているのは、小弓公方「足利義明」の歴史的な意義であり、関東戦国史に大きな影響を与えたことを本展を通じて訴えている。

5. そして、次のように述べています。「当時の東国は、公方が御所をおいた地域が政治的中心地でありましたから、わずか 20 年間程とはいえ、戦国時代の千葉市域は、古河（現在の茨城県古河市）と並ぶ関東の中心地であったのです。」

このように、千葉市域の知られざる一面と戦国時代からの当市域の重要性を強調しています。

なお、本展の案内チラシを下記に添付しましたので、参考に願います。

2022-12-7小弓公方足利義明、特別展